



「ネイチャーポジティブに向けた投融資チェックリスト」の概要

2026年5月12日

WWFジャパン
金融グループ 橋本務太

WWF日本の金融に関する活動



金融機関

各種エンゲージメント



気候・自然の側面も考慮される

事業会社

「金融機関」に関するWWFの活動

- セクターポリシーの提案
- 企業エンゲージメント支援



気候・ネイチャーポジティブの
視点をインプット

「事業会社」に関するWWFの活動

- SBTi
- セクター調達方針
- 水スチュワードシップ
- TNFD普及など

Finance

金融



Climate & Energy

気候・エネルギー



Food

フード



Biodiversity

生物多様性



Forests

森林



Freshwater

水



Oceans

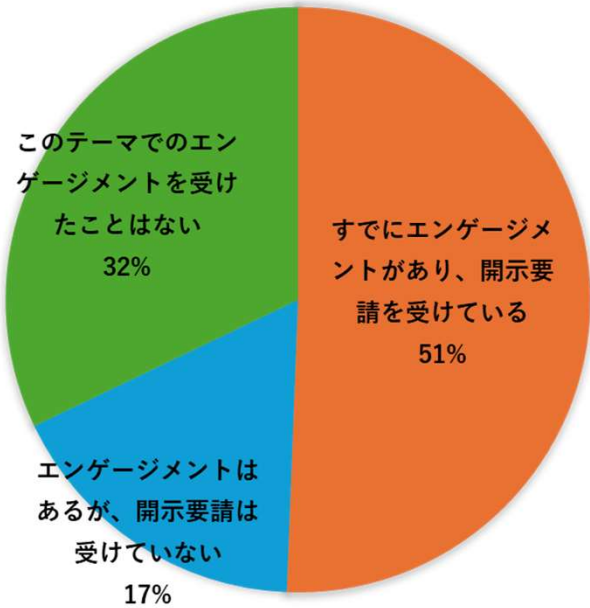
海洋・水産



ネイチャーポジティブに向けた投融資チェックリスト



森林コモディティに関する金融機関からのエンゲージメント状況



※4/24WWFセミナーお申込者のうち、森林コモディティ扱いのある企業 (n=81)

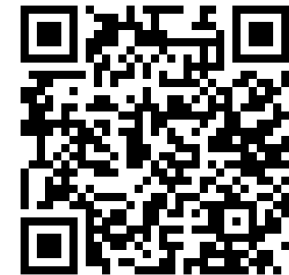
■ 背景

金融機関による自然分野の投融資先エンゲージメントが進展
ただし、諸課題も

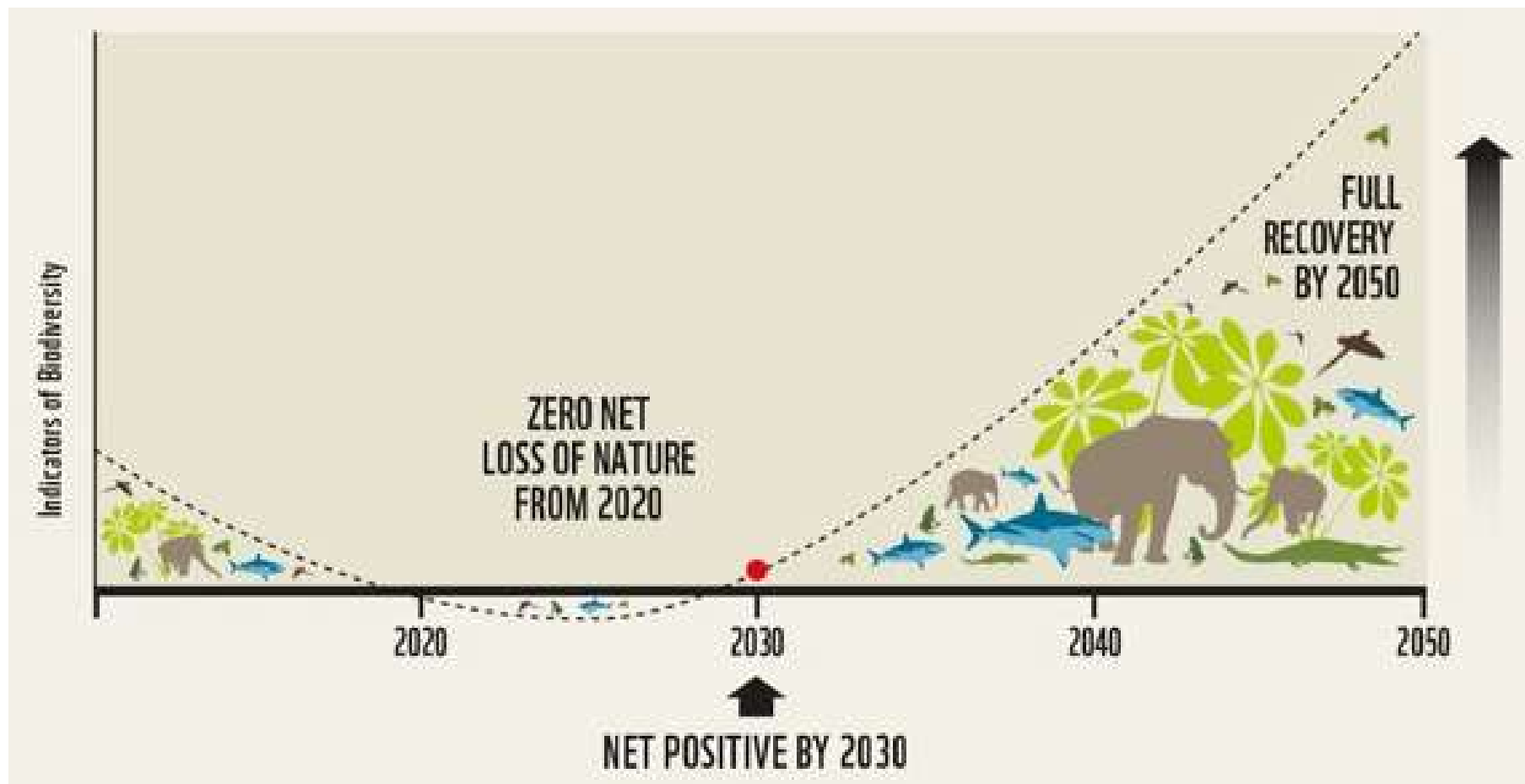
- エンゲージメントの分野が多様
- 事業会社のセクター、企業毎の取組進捗に大きな差異
- 取り組みの「質」の判別が困難
- 金融機関毎の確認事項にばらつき

■ WWFのチェックリスト

- 事業会社に**一定の取組がある**コモディティに注目
- 自然関連リスクの多い「**バリューチェーン**」を主対象
- 指標に難易度を設定。現時点の必須項目と将来課題を明確化



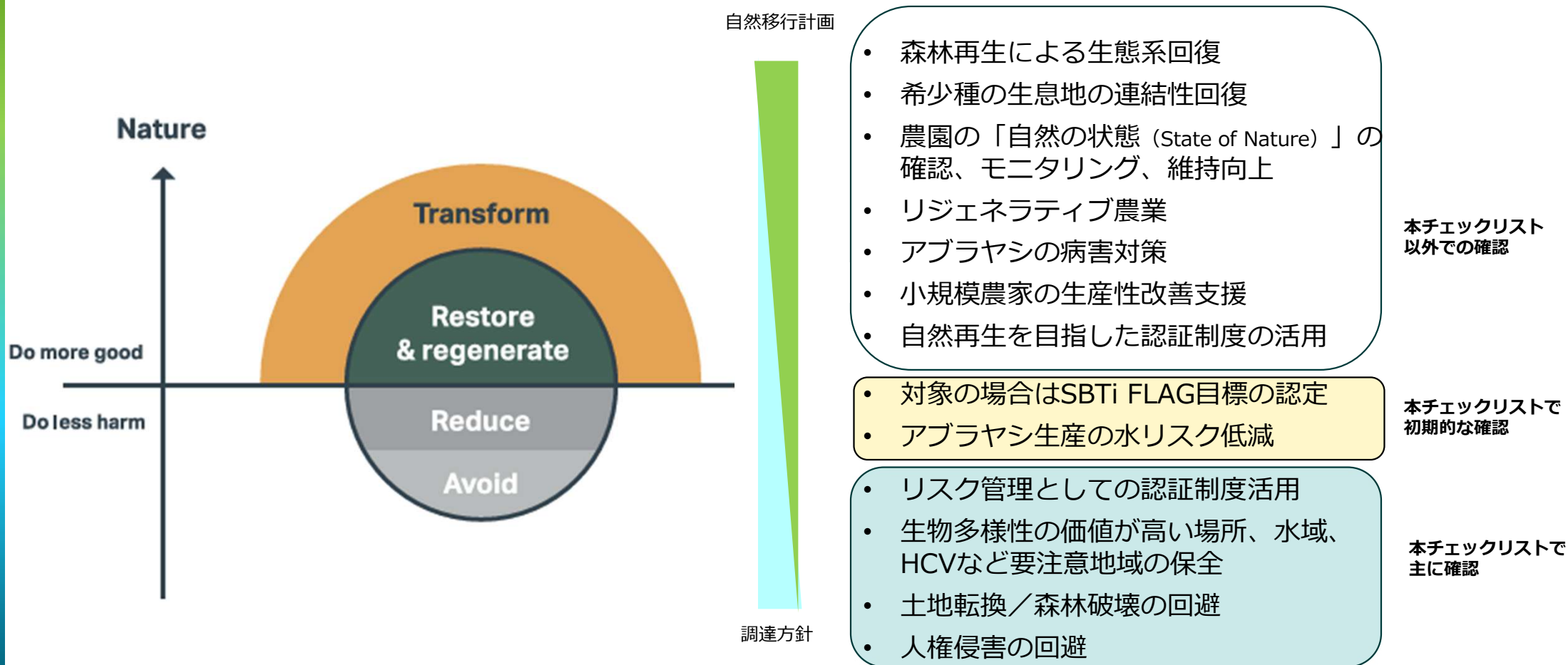
ネイチャーポジティブ



ネイチャーポジティブは「悪化」を食止める+「回復」を促す
「悪化」に関与しつつ「回復」を打ち出すのはグリーンウォッシュの恐れ

出典：Nature Positive Initiative

ミティゲーションヒエラルキーを踏まえた ネイチャーポジティブに向けた取り組み（パーム油の場合）



ネイチャーポジティブに向けた投融資チェックリスト



コモディティ	関連する代表的なセクター	コモディティ	関連する代表的なセクター
<p>パーム油</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 食品（特に加工食品全般、外食、製油） 化学（オレオケミカル※） ※パーム油やヤシ油など、主に植物系の油脂に由来する製品 消費財（洗剤、石鹸、化粧品等の日用品） 医薬品（サプリメント・製薬） 商社 小売業 電力・ガス（バイオマス発電） 	<p>天然ゴム</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ゴム（タイヤ） 自動車 輸送用機器 陸運・空運 商社 小売業（アパレル系の靴-ラバーブーツやソール）
<p>木材</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 建設 商社 不動産 その他製造（建材、家具等） 小売業 	<p>水産物</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 水産業（外部調達） 食品 商社 小売業 飲食業 飼料製造（魚粉を主原料とする肥料を含む） 医薬品（サプリメント）
<p>紙・紙製品</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維 パルプ・紙 商社 小売業（通販事業者を含む） サービス（出版・教育） その他製造（文具） 紙の包装材を使用する全セクター 	<p>コットン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 繊維（アパレル、テキスタイル、寝具） 化学 商社 その他製造（家具） 小売業

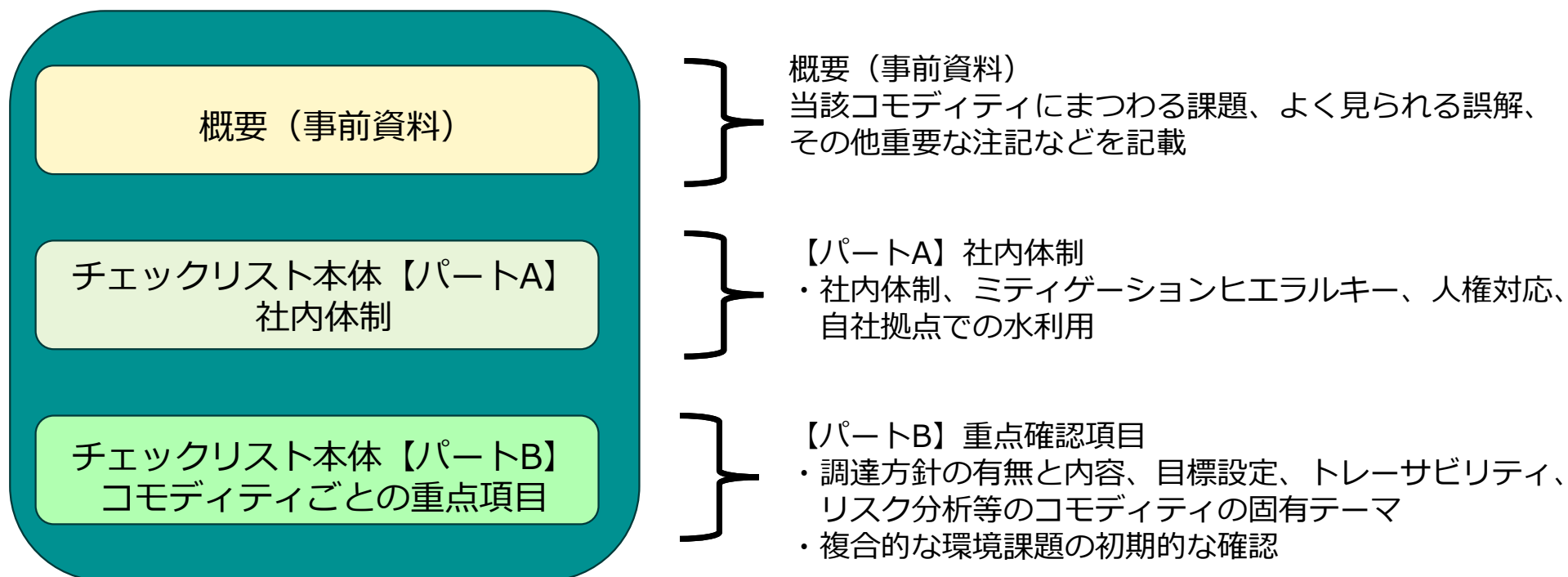
<https://www.wwf.or.jp/activities/lib/6034.html>

ネイチャーポジティブに向けた投融資チェックリスト



■ チェックリストの構成

- どのチェックリストも同じ
- コモディティ毎に異なる留意事項を記載



概要（事前資料）



	確認項目（パーム油）
1. 課題の把握（このコモディティ・テーマで）WWFジャパンがサプライチェーン・バリューチェーンで確認すべきと考える問題・課題	<p>（農園開発に伴う）森林破壊、土地転換、高い保護価値（HCV）3の毀損、泥炭地開発、人権侵害（児童労働、強制労働、IPLC4との土地紛争、労働安全衛生の課題）</p>
2. 利用できる認証制度	RSPO
3. 利用できるツール	N/A
4. 参加が推奨される枠組み等	RSPO
5. 事業会社の取り組みで良く見られる誤解、その他金融機関向け注記	<ul style="list-style-type: none"> • NDPE / 森林破壊ゼロ方針を持つ一方で、指標をRSPO認証油調達（特にKPIがマスバランス100%）としている企業が見られるが、マスバランスの調達だけでは農園までの紐づけが不可能なため、方針を達成したかどうか確認が取れず、指標としては不足している（途中の指標としては有効）。 • セグリゲーション以上であれば農園までの確認できる可能性は上がるが、セグリゲーションの調達＝農園確認とは自動的にならないため、トレーサビリティ確認を目指してサプライヤーとどのような話し合いや取組みを進めているかを確認する必要がある。 • ミルリストの把握は農園までのトレーサビリティ確認の途中ステップとして重要で、例えばミルの周囲を衛星画像等で確認し、森林減少が無いか確認することでリスク把握にも繋がる。

- 「1」で記載した課題に対する対応の確認が本チェックリストの主目的
- 「5」の記載が、取り組みの質を確認する時に重要ポイント

【パートA】社内体制 1～2

パートAの確認項目は全コモディティ共通。ただしコモディティに特化した留意事項の記載がある場合がある



ステップ	指標番号	難易度	確認項目
1. 社内体制	A-1-1	★	従業員へサステナビリティや持続可能な調達・環境保全の研修機会を提供している。
	A-1-2	★	自然関連の責任を経営レベルの職位または委員会に割り当てている
	A-1-3	★	定期的なTNFD開示をしている／TNFD（アーリー）アダプターである。
	A-1-4	★★	環境・人権NGOなどを含む、外部有識者との定期的な意見交換の場を設けている。外部有識者との意見交換が原材料調達やデューデリジェンス等を担当する部署に届き、実際の運用に反映される体制がある。
2. ミティゲーション ヒエラルキー	A-2-1	★	バリューチェーンを含むネガティブインパクトの低減が再生や回復に優先することを対外的に表明している。
	A-2-2	★★	B-2-2、B-3-2、B-4-2の全てが実施されている。（調達方針、目標、トレーサビリティに一定の取り組み）
	A-2-3	★★★	生産者やサプライヤーへの改善支援を行っている。
	A-2-4	★★★ ★	該当するコモディティ／イシューについて、回避、削減を超えたネイチャーポジティブの取り組みを実施している。

- ★の数が多いほど「難易度」が高い
- ★★までは「実施している／していない」といったシンプルな確認が可能
- ★★★以上は部分的に実施しているといった取り組みに濃淡があり、「Yes/No」だけでチェックせず、中期的な達成を確認する
- 「ミティゲーションヒエラルキー」は難易度の低い指標が全て実施された後に★★★以降をチェックする
(例：★★★に該当する取り組みがあっても、★と★★の実施が確認できた後にチェックする)

【パートA】社内体制 3

パートAの確認項目は全コモディティ共通。ただしコモディティに特化した留意事項の記載がある場合がある



ステップ	指標番号	難易度	確認項目
3. 人権対応	A-3-1	★	ビジネスと人権に関する指導原則(UNGP)、ILO条約やOECD多国籍企業ガイドライン等の国際規範を把握し、人権方針を策定している。
	A-3-2	★★	自社による是正・救済が必要な場合、対応を実施し、その概要や件数を開示している。
	A-3-3	★★★	IPLCや影響を受けるステークホルダーを含む、バリューチェーン全体を対象としたグリーンバンスメカニズムを構築している。
	A-3-4	★★★	バリューチェーン全体を対象とした人権デューデリジェンス実施体制を構築している。
	A-3-5	★★★★	バリューチェーンで是正・救済が必要な場合、関連するサプライヤーや二次サプライヤーに対する対応を実施している。

【再掲】

- ★の数が多いほど「難易度」が高い
- ★★までは「実施している／していない」といったシンプルな確認が可能
- ★★★以上は部分的に実施しているといった取り組みに濃淡があり、「Yes/No」だけでチェックせず、中期的な達成を確認する

【パートA】 社内体制 4（自社拠点の水リスク）



ステップ	指標番号	難易度	確認項目
4. 自社拠点の水リスク	A-4-0		自社拠点での水利用（オフィスを除く、農業や工業での利用）がある。
	A-4-0が「有」の場合、A-4-1からA-4-7を確認 A-4-0が「無」の場合、B-1-1へ		
	A-4-1	★	自社拠点においてWater Risk Filter、Aqueduct等のリスクは空きのためのツールを用いた水リスク分析が行われている。
	A-4-2	★	・水量（水の効率的利用、渇水/水ストレス）についての分析が行われている。 ・自社拠点での水の効率的な利用や、汚染の防除の取り組みが実施されている。
	A-4-3	★★	水ストレス（渇水）以外の指標（汚染・洪水・評判・ガバナンス等）についても分析されている。
	A-4-4	★★	将来予測（気候変動シナリオ分析を含む）に基づいた分析がされている。
	A-4-5	★★★	WASH（水と衛生）や、洪水等の水が起因となる自然災害への対応がされている。
	A-4-6	★★★★	水ガバナンスへの働きかけを行っている（例えば、産官学+金融といった多様なステークホルダーと地下水保全の取り組みを行っている等）。
A-4-7	★★★★	水関連の目標がローカルの状況を捉えたもの（Contextual Targets）となっている（例えば、自社のサプライチェーンの水リスク分析を元に、リスクの高さに応じた目標設定を、水量・水質・洪水・WASH（水と衛生）、水ガバナンスの5つのリスクカテゴリーで設定している）。	

- 水リスクは注目度が高まっている領域
- 自社拠点の水リスクについて、扱うコモディティに限らず本チェックリストでも一定程度確認できる

【パートB】 重点項目



ステップ	難易度	指標数	確認項目
1. 課題認識	★のみ	1指標	TNFD開示などを参照し、事業会社が当該コモディティにまつわる課題を認識しているか
2. 方針策定	★~★★★★	3指標	当該コモディティに関する調達方針の内容
3. 方針に対応した目標設定と開示	★~★★★★	5指標	調達方針に対応した目標設定
4. トレーサビリティ	★~★★★★	3指標	当該コモディティのトレーサビリティのレベル
5. デューデリジェンス	★~★★★★	3指標	当該コモディティに関する課題の確認と対応の状況
6. クロスカッピング	★★★★のみ	3指標	調達方針だけでカバーできない気候・自然関連テーマの初期的な確認状況

- 【パートB】で、各コモディティによる影響の「回避」「軽減」を確認する
- 構成は各コモディティ共通、留意事項がコモディティ毎に異なる
- ステップ6は伝統的な調達方針だけでは対応しきれない内容。「気候と自然の同時解決」「自然関連の依存・影響の把握」「ランドスケープアプローチ」といった近年の関心事項の入口となる確認項目



together possible™

ご質問など、いつでもお問い合わせください。

sustainable.finance@wwf.or.jp



Working to sustain the natural world for the benefit of people and wildlife.

together possible™ panda.org

本資料は、2026年4月17日までに公表されている資料等に基づき作成されています。今後の内容の変更等にご留意下さい。本資料の無断転載・複写を禁じます。